

## 大船渡魚市場株式会社の概要

古い資料によると昭和22年頃の大船渡湾内には「大船渡水産市場株式会社」、気仙郡漁業協同組合連合会「第一魚市場」「第二魚市場」「太洋産業株式会社」の4市場があり、更に気仙郡内には気仙町魚市場、廣田村魚市場があったとの記録が残されています。しかし、魚類統制全廃や不況により多額の回収不能が発生し、各市場は営業休止の状態に陥りました。

このため、水産業を中核とする経済界は壊滅の危機となり大船渡町民はもとより近隣町村民間の世論要望が強く、当時、総合開発特定地域に指定された大船渡町が主体となり4市場を合併し、現大船渡魚市場株式会社の前身である大船渡水産市場株式会社を昭和26年6月13日設立しました。この時は、多くの町民から投資浄財を募りました。苦しい時代を経た経験から社訓は『堅実一途』と示されています。

昭和33年5月、現社名に変更し、更に、経営不振に陥った細浦魚市場株式会社と統合し、平成11年11月29日『一港一市場』の実現となりました。

この間、大船渡魚市場株式会社の存亡の危機は、昭和49年オイルショックに端を発した中央からの企業倒産のあおりを受け当地区でも倒産が相次ぎ、7億5千万円超にのぼる多額の不良債権をかかえる事態に陥った時でした。

この時も市民から投資浄財を募り、総株主数は652名となりました。地方の一企業としては破格の株主数であり、当社はまさに『市民の共有財産』と言える会社です。この再建には10ヶ年を要しましたが、この間の経営努力が現在の健全財務確立に大きく役立っています。

また、水揚もサケ放流に後押しされた栽培漁業の恩益により、飛躍的な伸率を示し、計画通り順調に再建が達成されました。

平成23年3月11日東日本大震災に誘発された大津波では、二階事務所の天井まで水位が上がり壊滅的被害を受けましたが、関係各位のご支援ご協力の元、同年5月7日から営業を再開し、市場の使命を果たしています。

近年は顕著な魚価低迷や水産資源減少等により、水揚量や水揚額は減少傾向にありますが、新たな漁業種の開拓や新市場建設本体完成による受入態勢整備の促進により中核的市場へと飛躍を期しています。

## 沿革

昭和26年6月13日	大船渡水産市場株式会社設立
昭和33年05月	大船渡魚市場株式会社に社名変更
昭和39年09月	新築移転（大船渡市大船渡町字永沢174番地）
昭和49年08月	水産会社や関連産業の倒産により多額の不良債権をかかえ、再建10ヶ年計画を作成
昭和59年3月31日	再建10ヶ年計画終了
平成5年3月31日	史上最高の水揚額88億7,556万4,157円達成
平成11年11月29日	細浦魚市場株式会社と統合し「一港一市場」の実現
平成12年06月	新たな魚種水揚開拓としてカツオ日曜水揚開始
平成23年3月11日	新市場本体完成を半年後に控えて東日本大震災により大規模被災。旧市場は二階事務所天井まで水位が上がる大規模半壊。
平成23年5月7日	旧市場で営業再開
平成26年4月30日	新市場本体完成に伴い市場移行（大船渡市大船渡町字永沢209番地）